

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 12

四万十源流ダム湖畔めぐりサイクリング

高知県 梶原町長
なか ことし 武義
たけ よし



1. はじめに

梶原町は、高知県中西部に位置し、愛媛県との県境にある面積236.51km²の広大な地域で、面積の91%が森林となっています。

標高は、南部の220mから北部四国カルスト地帯の1,456mと大きな高低差があり、地形は急傾斜が多く、平坦地は町を二分するように南流する梶原川とその支流沿いに点在しているにすぎません。

冬季には積雪も見られ、中央部で0.3m～0.6m、北部山岳地域では1.0m～1.5mに及ぶこともあります。

梶原川は四国カルストを源とする四万十川最大の支流であり、「四万十川」という名前の語源も、梶原町の四万川地区と十和村の十川地区がくっついてできた名前とも言われています。7月25日を「四万十川の日」と定め、直近の日曜日には、流域7市町村の住民がそれぞれの流域で四万十川の環境を保全するため草刈りやゴミ拾いを実施しています。



風を切って走るサイクリングの参加者

2. ダム湖畔めぐりサイクリング大会

四万十川にはダムがなく、高さ15m以下の堰が1か所あります。しかし、梶原川には四国電力の発電用ダムが4か所あり、アユやウナギが遡上できないため毎年放流を行っています。

このダム湖畔をめぐりサイクリングをしようということで、梶原町の道の駅「雲の上」と四万十川と梶原川の合流点にある大正町の道の駅「四万十大正」を結ぶ57kmのサイクリングを平成8年度から毎年8月下旬の土曜日に実施しています。

子供から大人まで毎年150名程度の参加を得て、両道の駅の出発地を隔年とし、標高差が300m近くあるため、下りは快適なサイクリングながらも上りの年は一転して地獄の坂となり、汗だくになりながら、そして、沿線住民の心のこもった飲料水の差し入れや温かい激励を受け、川面から吹き上げる初秋の爽やかな風を浴びて梶原川の自然を満喫しながら、走りきった後の爽快感と交流会を楽しみにペダルを漕いでいます。

皆さんも是非参加してください。



スタート前に記念撮影